小学生(低)礼拝１月①

真の父母様生涯路程①「真のお父様の誕生と少年時代」

きょうのお話は真のお父様についてです。

イエス様は十字架でなくなりましたが、神様の国を造るために「また来る」とおっ者いました。神様の国をつくるためにメシヤとして地上に再び来られる方のことを「再臨主」といいます。その再臨主が真のお父様です。

真のお父様は、陰暦1920年1月6日に韓半島の平安北道にある定州というところでお生まれになりました。

そこは、自然がとても美しいところでした。山があり、川もあり、そこにはたくさんの動物も棲んでいました。

真のお父様がお生まれになる３年前から、家の周りで、不思議なことが起こっていました。金鶏（きんけい）が家の庭先に飛んできては鳴いていたというのです。金鶏（きんけい）は、良い知らせをもってくるという言い伝えがあるので、家の人は何か良いことが起こるに違いない、と真のお父様の誕生を心から待っていました。

こうして、真のお父様は、家族と村の人々に喜ばれながらお生まれになったのです。

　真のお父様の御名前は「文龍明（ムンヨンミョン）」と言いました。大人になってから、「文鮮明（ムンソンミョン）」に名前を変えられたのです。「文」は真理を意味します。「鮮」は、魚と羊で海と陸、水と地を表します。「明」は、日と月です。ですから、天と地を真理によって一つにされる方です。

その頃、韓半島には貧しい人々がたくさんいました。住む家を求めて、たくさんの人々が定州の村を通りました。「文氏の家に行けば、ただでご飯を食べさせてくれる」と、村の外にまで知れ渡っていました。

　真のお父様の御家族は、文家の家訓を守りました。突然、家に人が訪ねてきても必ずご飯を食べさせてあげたのです。訪ねてきた人の分のご飯が無ければ、まず、おじいさんが自分のご飯をさっと持っていきました。真のお父様は、よちよち歩きを始めて最初に学んだことが、人にご飯を食べさせるということでした。このように「ために生きる」家系にお生まれになった真のお父様でした。

そのような家庭で育った真のお父様は、自然の中からいろいろなことを学ばれました。

真のお父様は、とても好奇心旺盛で、知らないことがあると我慢ができない性格でした。例えば、目の前に木があったら、登らずにいられないのです。木の上に何があるか、知りたいと思ったら、体を止めることができないのです。

ある時、アカシアの木にカササギが巣を作りました。

真のお父様は、カササギと友だちになりたくて、毎日、木を登り、巣の中の雛に会いに行きました。初めは、「カッカッカッカッ」としきりに鳴いて騒いだのですが、いつしかじっと待ってくれるようになったのです。

カササギと友だちになると、成長した雛が１匹ずつ親のもとから飛び立っていく姿を見た時、卵の時から育てた雛が自分の子供のように思えて、別れが悲しくて泣いてしまいました。真のお父様は小さい時からとても情が深かったのです。

真のお父様は、川でもよく遊びました。近くの川で、ウナギ捕りをたくさんしました。ウナギは広い所ではなく、穴に隠れていました。頭を穴に押し込んでも、長い体を全部入れることができず、尻尾がちょこっと出ていました。その尻尾を口で噛んで捕まえたのです。夏休みには、40匹以上ウナギを捕まえて、お客様や、村の人々に分けてあげました。

真のお父様は遊びだけでなく、勉強も一生懸命にされました。「五山（オサン）の家の下の子（真のお父様）は、一度決心すれば必ずやる」と、村の人々は言いました。お父様は、勉強も遊びも心に決めたら最後まで頑張りました。

また、真のお父様は、負けず嫌いなところもありました。ある時、3歳年上の子に相撲で負けたことがあり、くやしくて、アカシアの木の皮がはがれるほど木にぶつかって稽古をしました。

そして、6か月後には、なんとその子に勝ってしまったのです。

どうですか、皆さんも子供の頃のお父様にどこか似ているところがあるのではないでしょうか？ みなさんも、真のお父様のように人や自然を愛し、神様が与えて下さった環境から沢山のことを学び、大きく成長していきましょう！